

## アールスメロン「雅秋冬」の特性

農業研究センター 農産園芸研究所 野菜部

担当者：末永 善久

### 研究のねらい

本県における主なアールスメロン品種はセイヌ系品種群である。この品種群は草勢が中位で、ネット形成が安定しているほか糖度も 14~15 度と安定し、商品化率が高く、栽培しやすい特性を有している。

しかし欠点として食味がアールス純系より明らかに劣り、草勢は中位であるものの後半の草勢が低下した場合には品質・収量が低下する。また果皮が灰緑色で縦長果となりやすい等の欠点がある。そこで、抑制栽培でセイヌ系並のネット形成の安定性を持ち、食味が良好な品種を選定した。

### 研究の成果

#### 1 選定した品種

「雅秋冬」

#### 2 特性概要

- (1) 草勢は「セイヌ秋冬」より明らかに強く、収穫期まで維持される。
- (2) 果実肥大は「セイヌ秋冬」より劣るが、「雅早春晩秋」、「クレスト秋冬」、「サンデー晩秋」より肥大する。
- (3) ネットの揃いはセイヌ秋冬並みで安定し、ネットの盛り上がりは優れる。
- (4) 果形は良く揃い、正円形で、果柄は伸びにくい。
- (5) 食味は「セイヌ秋冬」より優れ、また糖度も高い傾向にある。
- (6) 秀優品収量は「セイヌ秋冬」より劣るが、秀優品率は同程度であり、肥大期に十分果実の緩みを図れば、秀優品収量は高まる。

### 普及上の留意点

- 1 12月上旬収穫タイプに適する。
- 2 加温栽培(18℃)を前提とする。
- 3 「セイヌ秋冬」より果実は硬化するので肥大期は十分緩め、果実肥大促進を図る。
- 4 葉面積は「セイヌ秋冬」より大きいため、やや粗植したほうが、品質が良くなる傾向にある。

表 1 秋冬収穫タイプのアールスメロンの果実特性

年度	播種日	品種名	成熟日数	果重	ネット		果皮色	糖度 Brix	食味	秀優 <sup>(c)</sup> 品収量	秀優品率
					揃い <sup>(a)</sup>	盛り上り <sup>(b)</sup>					
平成5年	8月	セイヌ秋冬	56	1765g	3.2	2.9	灰緑	14.8	-	217kg	62%
	10日	サンデー晩秋2	56	1375	3.1	2.7	灰白	15.6	良	169	73
		雅秋冬	60	1543	3.4	3.6	〃	15.0	やや良	274	94
平成6年	8月	セイヌ秋冬	62	1789g	3.7	2.5	灰緑	14.3	-	289kg	84%
	25日	雅秋冬	61	1598	2.9	3.3	〃	14.6	やや良	205	67%
平成7年	8月	サンデー晩秋2	57	1132g	3.3	2.6	灰白	14.6	-	180kg	91%
	25日	雅秋冬	60	1448	3.4	3.2	〃	14.6	やや劣	262	94
平成8年	8月	セイヌ秋冬	58	1707g	3.6	2.7	灰緑	14.9	-	264kg	87%
	25日	雅秋冬	59	1447	3.0	3.8	灰白	15.6	やや良	222	86

注) 10株2反復の平均

(a)、(b) : 不良~良(0~5)(c): アール当たり収量  
 収穫期・平成5年11月中旬、平成6~8年12月上旬



写真1 雅秋冬